

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジョイール千葉大前		
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1対1の個別療育で利用者さんに寄り添った支援ができること	朝会にて職員間で支援内容を共有し、各職員から意見をもらう取り組みをしている	様々な意見をもらうために支援会議を定期的実施します
2	保護者との連携をLINEや電話、面談など柔軟な方法で取るようにしている	面談は対面で、といった決まりは作らずにLINEでも気軽に相談できる環境を作っている。	保護者からの相談は、事業所のメンバーみんなで共有したくさんの意見から回答できるようにする
3	利用者のことについて話し合う時間が定期的にある	朝会のほかに、支援の直後や定期的な支援会議を作っています。	専門性が高い内容に関しては、できるだけ専門性に合った職種を集めて相談できるような機会をつくる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施報告が簡易的になっていたこと	支援記録に実施報告の記載を簡易的に記載していたこと	支援記録に簡易的に実施報告を記載するのではなく、LINEを通して保護者に避難訓練の実施報告をお伝えしていく
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会を確保できなかったこと	保護者からの支援に関する相談をLINEや電話のみで行っていたこと	保護者からの要望を確認し、要望をもとにご家族の方が参加できる会を検討していく
3	保護者同士の交流の機会、きょうだい同士の交流の機会を確保できなかったこと	保護者からの要望を確認できていなかったこと	ジョイールで開催できる場を検討していく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ジョイール千葉大前

公表日 2026年3月30日

利用児童数 13

回収数 6

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	2			もう少し広いといいなどは感じる	スペースの確保が必要な際は、職員の机を移動するなどして、環境の設定をしております。個別のスペースが必要な時には、可動式パーテーションでスペースを確保するなどして対応しております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1		1		1対1の個別療育の対応ができるよう、職員の数は配置しております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	2		1		児童発達支援は、利用者さんに合わせてスケジュールの構造化をしています。絵カードにてその日の流れがわかることで安心して過ごせるように考えています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	1		1		毎日整理整頓を心がけています。支援スペースを広く確保したいときには、職員の机を移動したりなど柔軟に対応しています。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5	1			もうすこし保育士、児童指導員以外の職種がいてもいいと思う	現在、保育士と児童指導員以外にも心理担当職員も支援チームに加わっております。訪問支援には理学療法士がおりますので、引き続き連携をとりながら支援を行ってまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5	1				利用者の発達段階に合わせて支援内容をプログラムから抜粋して個別支援計画に落とし込んでいます。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5	1				個別支援計画を立てる前には、保護者とのモニタリング面談をし、支援職員からも意見をもらい作成しています。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	1				モニタリング面談、アセスメントの面談の際に保護者と一緒に内容を確認しながら進めており、具体的な内容を考えております。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					個別支援計画はできるだけ支援内容を詳細にかくことで、支援員が的確に支援できるように設定しています
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	1				支援の内容は、支援員複数名でかんがえているので、偏った支援にならないよう配慮しています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3		2	1		現在はありません。今後機会がありましたら実施したいと考えています。
保 護 者 へ の 説	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4	1		1		事業所のご見学の際にご利用ガイドを用いながら、施設のご説明をさせていただきます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	1				適時、面談等で説明をさせていただいております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2		1	3		今年度は家族会の実施が難しかったため、来年度検討してまいります。 予定が決まりましたら、LINEにてお知らせさせていただきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4	2				支援記録に毎回お子様の様子を記録させていただいております。そのほか体調面で気になるお子様に関してはLINE等でご連絡します。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5		1			気になることがございましたらジョイールのLINEやお電話にてご相談を受け付けており、適時ご対応しております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	1			ここ最近では事業所として利益、という雰囲気を感じる	ご意見ありがとうございます。福祉事業所として、継続的な支援を行う事で療育の効果を実感できるよう、振替利用をご案内しております。何卒ご理解いただけますと幸いです。

明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		1	3		今年度は家族会の実施が難しかったため、来年度検討してまいります。 予定が決まりましたら、LINEにてお知らせさせていただきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5		1			困りごとや気になることがあればジョイレーのLINEやお電話にてご相談を受け付けており、適時ご対応しております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5		1			子どもへは共通言語となるツールを使用する配慮をしています。保護者様へは、LINEを使用しお迎え時間等の連絡ができるように配慮しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3		1	2		毎年ホームページにて評価を公開させていただいております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5		1		他に利用されている子の名前が保育園の連絡帳に書かれていた。指導していないんだと感じた	情報の共有ありがとうございます。保育園の連絡帳は事業所では把握できかねますが、今一度関わりのある保育園へ個人情報の配慮をお願いしたいと思います。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			3		各種マニュアルはご利用ガイドに記載させていただいております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	1		3	以前は行われていたのは把握している	毎月一回避難訓練を実施しています。ご利用曜日ではない日に実施することもあります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	1		1	出入り口に鍵がかかっているないので、自由に開け閉めできるところが安全性に不安	ご指摘ありがとうございます。出入口付近に職員がつくようにし、防犯面でも気を付けております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4			2		ケガや事故があったときには、保護者様に速やかに連絡し、対処したことも共有させていただいております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					引き続き、安心して通所できるような環境を整えてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5	1				引き続き、楽しんで通ってもらえるようなイベントや活動内容をスタッフ一同考えてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	1				引き続き、利用者様や保護者様と連携をとりながら継続性を意識した支援を行ってまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ジョイール千葉大前		公表日		2026年3月30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	・パーテーションをうまく利用した環境設定ができています ・可動式パーテーションを使って、支援環境を子どもに合わせて即時対応している ・屏風型仕切り版を利用している ・個室が設置されていることもあり、学習と自由遊びで区切られていることがよい	・テーブルの個数が少なく、座って作業するスペースが少ない ・椅子の数や机の数に関しては利用者の状態を見て別室に移動するなどに対応する		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	4	・支援中は1対1の対応になっている	・支援員が添乗に出してしまうと室内見守り人数に不足が生じる時がある ・支援中は1対1の対応になっているが、それ以外の時間に関しては余裕をもって支援できる職員配置になるようシフト管理を見直す		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・自分で使ったものを片付ける習慣を身につけられるよう、種類毎にケースに収納している ・ワンフロアで一目でどこに利用者と職員がいるか分かるようにしている ・絵カードなどで伝えられている ・小さい玩具が半透明ケースに収められ管理番号が付けられており、取り出し片付けがしやすい ・おもちゃの棚に布が覆われていることにより、学習の際に、情報を遮ることができる ・児童からとって欲しいものを「とって」とジェスチャーすることができる			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	・整理整頓が出来るよう、情報を与えずぎないよう、カーテンで遮断したり、ケースに収納している ・毎日清掃しており、清潔な環境となるよう心がけている ・職員で役割を分担している。掃除の割り振りを行うことができています	・掃除用具を新調して、より清潔に過ごせるような環境を目指す ・勉強スペースが少ない、机の増加		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・朝会にて共有している ・奥に個別対応ができるような部屋を用意している ・個室に入りたいと希望する児童は、個室でのコグトレ、宿題をしている環境が整っている	・クールダウンのための個室を用意しているので、必要な時にすぐ利用できる状態にする ・個室の広さが一歳弱と児童と支援員2人で入るには狭い		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		・定期的にモニタリングの意見を求めたり、朝会の際に支援の内容を相談する場を設けている ・朝会時に当日の朝礼内容以外に支援員各自の児童に対しての気付きについて話し合うことが出来ている ・全職員が支援経過記録を記入することで、何ができて、できなかったかを明確に知ることができている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	・保護者の意向も事業所全体で共有し、把握している ・毎年のアンケートにて改善できるところは事業所内で相談している ・児童より児童本人やご父兄の面談内容が共有され、支援の方向性の統一に役立てられている			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	・業務改善のミーティングを設けて、効率的に業務でできるように都度相談している ・朝会時に当日の朝礼内容以外について支援員の気付きについて話し合うことができています ・HUG、支援経過記録など、全職員が見ることができる環境が整っている。	・朝会の時間以外にも情報共有ができる時間が設けられるかをスケジュールを調整する		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5		・第三者による外部評価は実施していない		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・法定研修のほかに、外部研修もオンラインで受講するなどスキルアップに努めている ・研修動画を通して、全職員が適切な支援を行える体制ができています	・法定研修のほかに、ジョイールグループの中で交流研修を行うなどして、スキルの向上につながる研修を今後行っていく		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・支援員同士で支援ソフトや朝会など公表の時間を設けている ・ジョイールのホームページにて支援プログラムを公開している			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		・保護者からの聞き取りや、利用者の姿をみてアセスメントをとり、支援員と相談しながら計画案を作成している ・他の支援員に相談をして個々の目標やアセスメントに目を通してかわるよう意識している ・保護者との面談を通して、ニーズを確認する体制ができています ・児童が発達支援に到達したと職員同士で考えた場合は、計画を次にステップアップする体制ができています			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	・利用者情報として、LWを使って共有、保存している ・計画原案を支援員にも見てもらい、意見をもらっている ・新しく児童発達支援計画が全職員で意見を共有、意見に対する書き込みを行う機会が設けられている			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・常に支援ソフトで確認できる状態である ・児童支援計画で決めた目標を達成するために、支援での基盤を考えることができています			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	・月に1度、リスクスクリーニングなどを行っている ・行動観察においては、5領域のチェック項目を用いながら利用者の状況を適切に把握できるよう努めている			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	・計画案に、必要な内容を取り入れ支援できるように設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	・計画案にできるだけ具体的に内容を記載して、チームで実行できるようにしている ・活動プログラムにおいて、全職員が統一して行うべく支援の方法について考える機会ができています	・朝会の時間のほかにも支援内容について話し合える時間を作る
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・計画案の内容から支援員同士で話し合いをしながら、目標に到達するためにそれぞれの資格を活かせる支援を行なっている ・一人ひとりの児童にあった意見交換をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		・利用者によって、個別支援と集団支援を織り交ぜながら支援をしている ・集団活動では、なるべく児童間での関わりを増やすように、サーキット、動画を通したダンスなど全児童が同じ時間で楽しめる工夫をしている ・基本個別療育ですが、時間が合うときにお友だちとやりとりができるように環境設定をしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・毎日必ず朝に会議を行い、どんな支援をするかを発表し、適時支援内容を相談するようにしている ・朝会において、ヒヤリハット・本日の支援発表をする場を設けていることで、前日に行った児童の様子を振り返るとともに、やるべきことしないほうがいいことなど支援について話し合う場ができています	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	・利用者の姿を話すことで今日どんなことができたか、次回どんな支援が必要か把握している ・朝会に気がなったこと、支援員で怪我のリスクとなる行動を共有している ・支援終了後では、支援経過記録の記入を早急に行っている。その日児童ができたこと、変化について書くことで、次の支援ですべきことを共有する場ができています	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		・保護者に公開する記録以外に事業所内の記録をとることで振り返れるようにしている ・少しでも感じた児童の変化をそのまま保護者や職員に共有している ・支援記録には写真と個別支援計画に基づいた振り返りをしている	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1	・支援をする中で、利用者の姿と目標のずれがあった際は保護者と相談しながら計画の見直しをしている ・児童支援計画の目標においては、ある程度達成したと感じた際は、児発官や支援員に朝会で発表する場が設けられている		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・支援に携わる者が会議に参加するようにしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・利用者が通っている保育園や幼稚園等と必要な回数支援会議を行なっている ・訪問支援などを通して、事業所内ではなく、学校や地域など外での課題を知ることができる。その課題を、支援に取り入れることができています	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		・保育所等訪問支援の会議で利用者への合理的配慮を求めよう働きかけている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	・関係機関連携の支援会議にて、児童発達支援の際の計画目標の共有をしている	・児童発達支援から放課後等デイサービスにうつる方に関しては、計画を共有して、連続性のある支援ができるように関わっていく
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	3			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	5	・近くの公園での外遊びも支援内容に取り入れている ・利用者が通う保育所、幼稚園とは日頃の送迎時お話をすることや、支援会議を実施して連携をとっている	・送迎の際に他の児童と関わる場面もあるが、交流する場面はあまりない	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・支援記録の共有を毎回行っている。また、LINEにて家庭での困りごとなどを聞き取るなどして共通理解に努めている ・HUGを記入することで利用者の様子をそのまま伝えるようにしている ・ま保護者からいただいたコメントを通じて、保護者のニーズを知ることができている		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	6	・困り事があった際には、LINEや電話、面談を通じて情報提供をしている		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	・見学の際に直接説明している	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	・面談の際に、希望等を聞き取りをしている ・児童発達支援計画を作成することはないが、作られたものに対して、意見を交換する場ができています	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		・支援計画を実際にご覧いただき、意見いただいている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・LINEにて日程調整して電話や対面の面談を実施している	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	8		・可能な環境と実施できる日程を確保して周知したいと考えている
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・営業日にご連絡いただいた内容に関しては、できるだけ次の日までには対応できるようにしている ・電話対応などがあった場合には、他の職員に情報をすぐに共有できるようにコメントをしている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	2	・ブログを定期的に更新しており、ジョイールでの活動を公開している	・ブログにて情報発信するとともに、ジョイールでの活動の様子が伝わる方法を模索する
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・個人情報の書類の保管は鍵付きの車庫でしている ・プリント印刷されたものはシュレッダーにかけて、外部に漏れることのないように徹底している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・個々に必要な絵カードを用意している ・できるだけ視覚支援を取り入れながら対応している ・障害のある子供が行うジェスチャーや言葉の意味を理解するために、保護者や学校に聞くこともあった	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8		・現在は行事に地域の方を招待していないので、今後検討していく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・火災訓練、地震訓練を月に1度行っている	・不審者訓練に関しても今後実施していきたい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・避難訓練を毎月行っている ・地震や火災が起こった時の対応についても適宜訓練している	・災害時に必要な備蓄の発注に関して、事業所内で検品し方が一に備える
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		・てんかん発作のある利用者を把握して、必要な対応を周知している ・薬が必要な児童については、全職員が情報を確認できるように会議を開いて、周知する場を作っている ・利用者さんに合わせて必要な対応をマニュアル化している	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・食物アレルギーのある利用者の服薬方法や緊急時の対応に関して、医師から指示書をいただきそのように対応するよう、マニュアルを作り周知している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・計画案に目を通し、適宜対応をしている	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	・契約の際に、引き渡し書作成依頼をするなど、必要な情報を記載していただいている ・引き渡し方法や引き渡し可能な保護者の名前を控えておき、安全に引き渡しができるようにしている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・朝会の項目に含め、毎日検討することができている ・ヒヤリハットを事業所内で把握できるよう、表を用いて都度記入し、周知している ・HUGに載せるだけでなく口頭でもしっかり共有できている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・虐待防止の研修を全員が定期的に受け、意識を高く持ち支援に臨んでいる	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9			・まだそのような事案はないが、身体拘束が必要なことがあった際は、計画に入れることと保護者へ十分な説明を徹底する